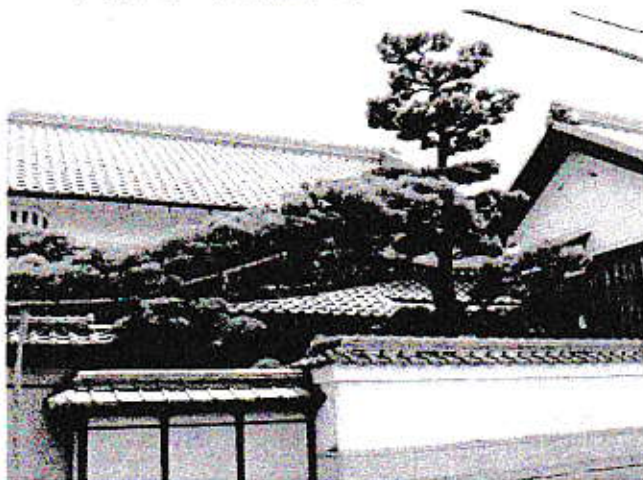
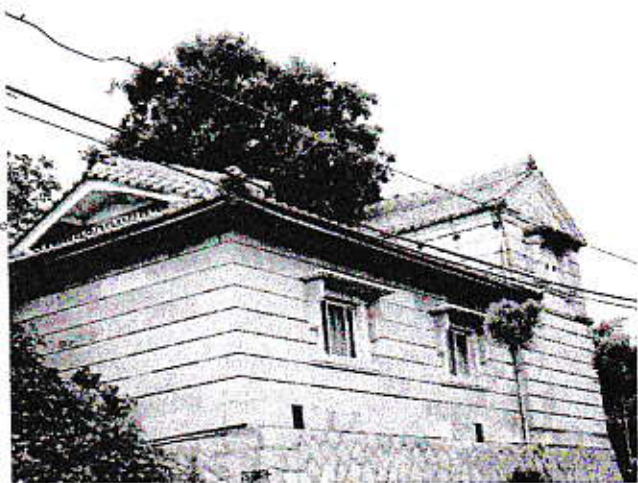


国街道の裏道です。西国街道は参勤交代の大名行列が通ったので、人々は道端に座って行列の通過を待たねばなりません。しかし、急ぎ旅の人や飛脚、集落の百姓などは、通過を待っている訳にはいかず、裏道が出来ました。これが現在でも残り、西の常夜灯の先まで続いています。中ほどにマンションが新築されましたが、旧い道の面影が薄れるのは残念です。



府道
120号、
田上・小
野原線を
越えて、
さらに
裏道は続
きます。
右手に箕
面で唯一
の大谷石
で造られ
た蔵が在
ります。
塀や石垣
は在りま
すが蔵を
造った例
は関西で
は非常に
珍しこと
です。裏
道の途中
で左折し
、西国街
道に出ま
す。
街道
の左手
にな鷹



野家の「門冠松」が白壁の塀越しに見えます。三代前から手塩にかけて育てたもので、市内で最も美しい姿をしています。門冠松は江戸時代末期から行われ、明治から大正時代に盛んに植えられ、市内にも沢山あります。

西国街道を南に入ると、春日神社の参道に灯籠が77基並び、宮池の水面が美しく輝いています。神社一帯は櫨が繁茂しており、うっそうとした鎮守の森を形成して



いましたが、区画整理事業や周辺開発で、形が変わってきました。例祭には箕面で一番大きな神輿が街を練り歩く。境内にWHOより天然痘撲滅に寄与した為表彰された、名誉市民笹川良一氏の顕彰碑も建っています。

春日神社の西側に松出公園があります。小野原の農業用水の貴重な水源であった松出池を埋めて造った公園で、栗生丘陵から彩都の住宅街も展望できます。子供たちの歓声も聞こえる遊び場です。

阪急小野原住宅は昭和54/62年に造成された住宅街で、北から西へ丘陵の傾斜を利用して階段状に整然と建物が並び、緑道が住民の手入れで美しく整備されています。続いて通称アメリカ村のモダンな住宅街が広がります。

墓地公園に入ると、広大な敷地に整然と墓石が並び、沢山の木が植えられています。管理人による清掃、補修なども行き届いていて、高度成長期に故郷を離れ都市周辺に移住した人々が、故郷から墓地を移転させる機運に乗って拡大しました。比較的平坦で、市街地の中で広大な敷地を占め勿体ない気がしますが、神田池の畔は桜や藤の花が一杯で、隠れた名所です。

西国街道を西に、今宮集落の芋川手前で、大きな粗樫が左手に見えま





す。江戸時代から庄屋を勤めた植村家の屋敷際に大きく葉を茂らせています。芋川を渡るとすぐ左手に2本の楠の大樹を中心として、「北向き地藏」と青面金剛の碑が在り、往時の旅人が一服する券囲気です。

西宿交差点でを国道171号を横断し、西宿自治会館前を西へ入ると、小路家の屋敷北西隅に大きな粗樫が枝を拡げています。しかし、幹が朽ちて樹勢が弱っている様に見えた。往時は田畑の中で、農作業の人々の憩いの木陰だったのだろう。しかし、昨今は住宅建設が進み田畑が急速に減少しています。

萱野中央近くの古井戸公園の一角で、花と緑で箕面市を美しくする活動をしている人々が、花の苗を育てたり、手入れの体験をする場として活用している花壇が在った。市民の温かい見守りと、花に関心のある市民の輪が広がることを期待しつつ、千里中央に辿り着き解散しました。

まちなみウォッチング 第77回
石橋麻田町、瀬川、半町、桜井駅まで
 2013. 9. 21

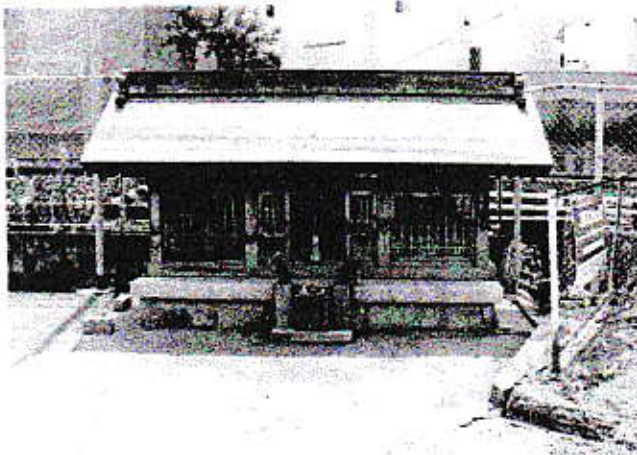
日頃歩かない道 散策シリーズ(第一回)

ウォッチングコース 歩行距離 約2.8km

阪急石橋駅東口 → 豊中市の飛び地 石橋麻田町 → 瀬川2丁目の地藏堂 → 瀬川郵便局横の細道 → 瀬川中公園の「坪」(休憩) → 日商岩井箕面ハイツ → 半町3丁目の迷路 → 桜井駅南側 → 阪急桜井駅(解散)

石橋駅を出発し、国道176号線高架下を潜って石橋文化幼稚園への道を辿ると、豊中市の飛び地石橋麻田町へ入る。周囲は池田市、箕面市に囲まれた所で、支配していた麻田藩の藩名が唯一残る町です。江戸時代に麻田村(中心は萱池)の住人が、この付近に田畑を所有していたため、豊中市誕生時に市域から離れて併合された。

飛び地だけに、学校、ごみ収集など不便なことが多かったが、現在は池田市の石橋小、中に通学出来ます。



西国街道に出て、すぐ右折すると阪急線の手前に大きな地藏堂があります。昭和40年代には、一面が田園地帯で水路を暗渠にした際に地藏や石塔が出たので、集めて祀られたものでした。付近は次々に住宅が建設され、田圃が無くなっています。しかも、小規模な開発で道路が迷路のように複雑で、行き止まり道も多い。

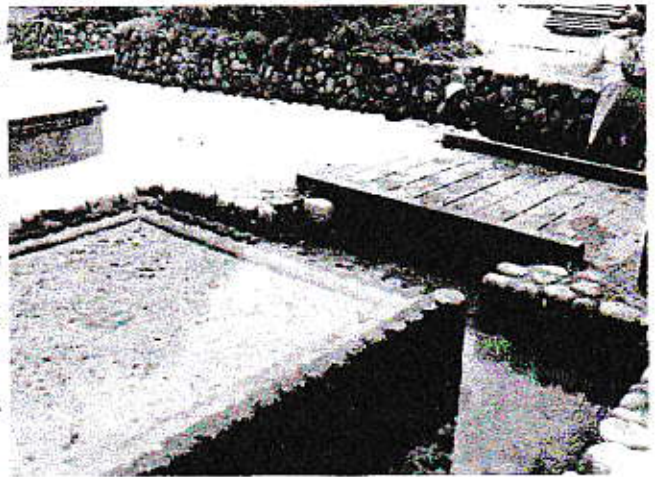
瀬川郵便局の路地を進むと、左手が住宅、右が農地の複雑な細道(こんな所、通れるの?)を経て、新興住宅街に出ます。この付近も農地でしたが、農家の高齢化と後継

者不足で、農地が次々に住宅地に変わっています。しかし、小規模開発の為、隣接地との一体感を感じられない。

瀬川中公園に隣接する「坪」で休憩する。この付近は箕面川の伏流水が、地表に湧き出す所が多く、近

くに17ヶ所も在ったそうで、「坪」と称し農業用水として利用されていた。此処の「坪」はこれらの歴史的なものをモニュメントとして伝える為に造られものです。

阪急線沿いに東へ進み、日商岩井箕面ハイツの中に入



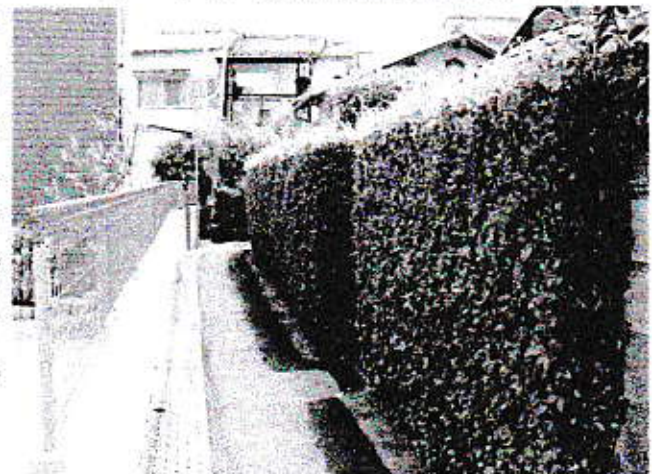
る。周囲が建物に囲まれた中庭に、半町中公

園がひっそりと在ります。ハイツ建設に伴って造られた開発公園ですが、居住者以外の一般市民には利用しにくい公園でした。

スーパーバード、コミセン西南小会館前を経て、半町



3丁目に入ります。直線道路が少なく、道幅もマチマチで、何処へ向かって歩いているのか方向が判らなくなる道が続きます。さらに生垣の隙間の様な所に入る始末です。何故こんな複雑な道が出来、住宅街となったのでしょうか。此の地域も瀬川2丁目同様に、豊かな田園地帯でしたが、野道に沿って住宅が建ち本格的な都市区画整備が行われる以前に、田圃が一枚一枚住宅に変わったものと考えられます。さらに古い記録では溜池も在って、池に沿った道は直線では無かったようです。



細道は情緒がありますが、高齢化社会を迎え、火災や急病など緊急事態に対応し難い点があります。しかし、住宅や土地は個人資産で、一旦街が出来ると、容易に改善は出来ません。

細道を辿り、最後に桜井駅の南側、小道を抜けて桜井駅に到着しました。お疲れ様

まちなみウォッチング 第78回

半町、瀬川、桜ヶ丘の樹木

2013. 10. 18

日頃歩かない道 散策シリーズ(第二回)

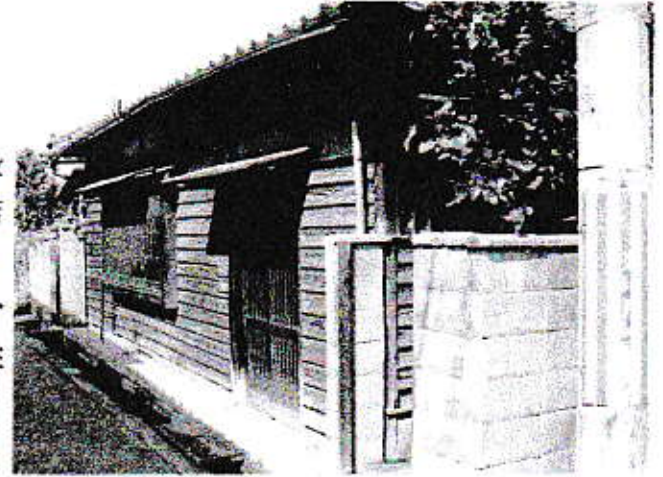
ウォッチングコース 歩行距離 約2.3km

阪急桜井駅 → 桜井市場前 → 阪急西牧踏切 → 柿畑 → 西国街道の三本の楠 → 百楽荘(洋館建ての住宅) → 牧落八幡大神宮(地元の人に祭について聴く)(休憩) → 牧落の街並みと細道 → 銭湯百楽湯 → 阪急牧落駅(解散)



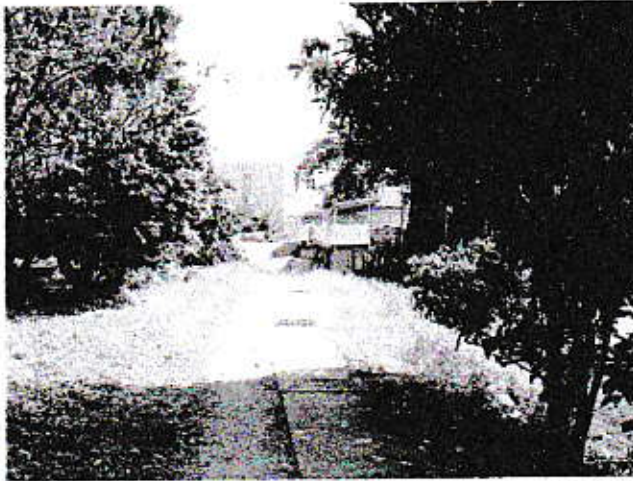


桜井駅から桜井市場入口前を進む。大阪万博の頃が最盛期で賑わった市場も、高齢化や廃業で約半数が空き店舗となっています。市場周辺は、早くから住宅が建ち、戦後の混乱期に建った全面板張りの住宅から最新の分譲住宅まで、新旧いろいろな建物が、建築史の様に混在しています。



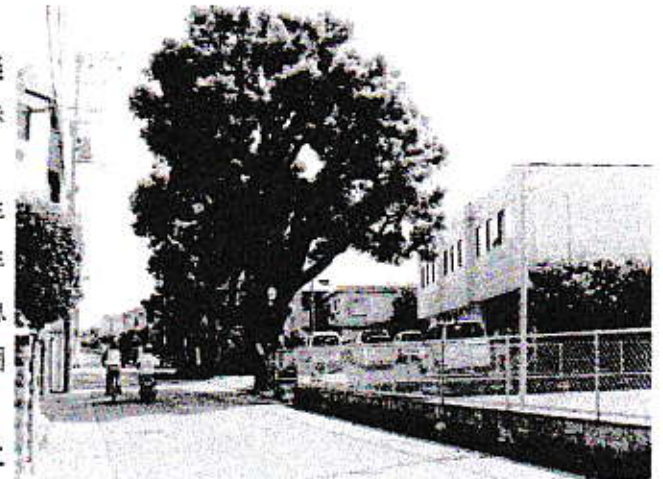
阪急の踏切近く、虫籠窓の大きな旧家が見え、その付近に田園地帯をしのぼせる農地が残っています。国道171号に接して柿畑が広がっているのは意外な風景です。

桜井から百楽荘へ入り、西国街道に出ると3本の指定樹木の楠が並んでおり、往時の街道風景を思い出させます。



百楽荘を歩きます。

かつて牧落の水田地帯で、明治32年に村役場、同43年に箕面小が移転し、同年に阪急が開業した。大正10年に牧落駅が設置されると、宅地開発が始まり、西は阪急線、東は八幡大神社、北は箕面小前、南は西国街道に囲まれたエリアで、大正14年に分譲が開始されました。弥生通りを主軸に両脇に二本の道路が南北に走り、特に



弥生通りは街路樹が無く、道路の脇に石組みの側溝を設置し、玄関に繋がる小さな石橋と石組みのつつじなどの生垣が独特の風情を醸し出して箕面市景観配慮地区に指定されています。建物は次々に更新され、開発当初のものは残っていない様ですが、風格のある街並みを形成しています。中には素敵な洋館作りの建物も見られます。しかし、時代の移り変わりは、大きな敷地が分割され、徐々に変化が起こっています。続いて八幡大神宮の境内に入り



牧落の氏神として勧請した八幡宮で、丁度秋祭りの準備に、多くの方が参加していました。

神社の歴史は古く、江戸時代の古地図にも描かれています。地元の歴史に詳しい方から、いろいろ話を伺った。女性だけの太鼓台が在ることを知り、珍しいことだと感心した。拝殿前には安政年間に造られた狛犬と、拝殿の鬼瓦の口が対をなして阿吽の形をしていた。

